

### (3) 調査地点

図 6.1.4-1～図 6.1.4-4 に示した G 地区(G 直近作業ヤード含む)、H 地区、N-1 地区、G 地区進入路、既存道路、工所用道路、歩道、H 付近作業ヤードの改変区域内で確認された貴重な動物種を移動対象とした。

移動後のモニタリングの調査地点は、図 6.1.4-16～図 6.1.4-19 に示した。

### (4) 調査結果

捕獲移動の実施状況を表 6.1.4-13 に示した。

移動した貴重な動物種は、爬虫類 2 種、両生類 2 種、昆虫類 4 種、クモ類 1 種、陸産貝類 13 種の 22 種 633 個体であった。[ ] については生息木の移動を実施した。これらは、捕獲後に土地の改変を受けない周辺の生息地へ放流した。

なお、両生類の [ ] と [ ]、爬虫類の [ ] [ ] と [ ] については評価図書において捕獲移動の対象種として選定していないが、移動作業中に確認したため、補足的に移動を実施したものである。

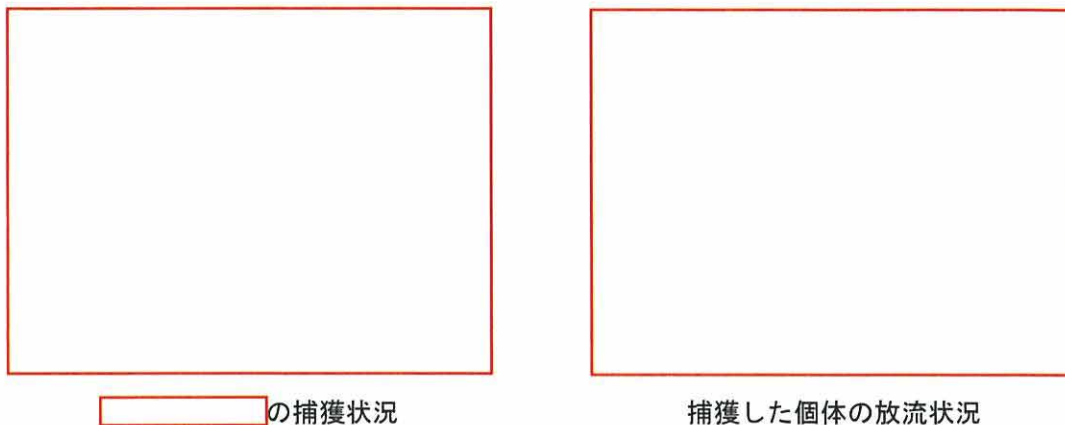


図 6.1.4-15 捕獲移動の実施状況

表 6.1.4-13 捕獲移動の実施状況

分類群	種名	G着陸帯	G進入路	N-1着陸帯	H着陸帯	工事用道路	歩道	H付近作業ヤード	既存道路	計
爬虫類	1					1	1			3
			14	5	1	4	19		1	44
	2		6	3	2	2	24		49	88
									1	1
			5		1	2		2	3	13
両生類	1		1		1					2
	4		2		3					9
			1							1
クモ類	5		3		45		5		11	69
							1			1
陸産貝類	1		21	8	13	5	1		21	70
	10		51	7	1	3	2		14	88
	1		11	4	2				6	24
								12		12
							1			1
			1			1	5		11	18
	9		17		2	1	3	1	2	35
	17		21	3	9	3	2	2		57
	1		2	1	1					5
			12	2		1			1	16
10		14	25	15	1	1	5	6	76	
	合計	61	182	59	98	27	65	21	120	633

注1) [ ]については、生息木の移動を実施した。  
 注2) 捕獲移動の対象としていない爬虫類や両生類についても、捕獲移動の作業中に確認した場合は補足的に移動を実施した。

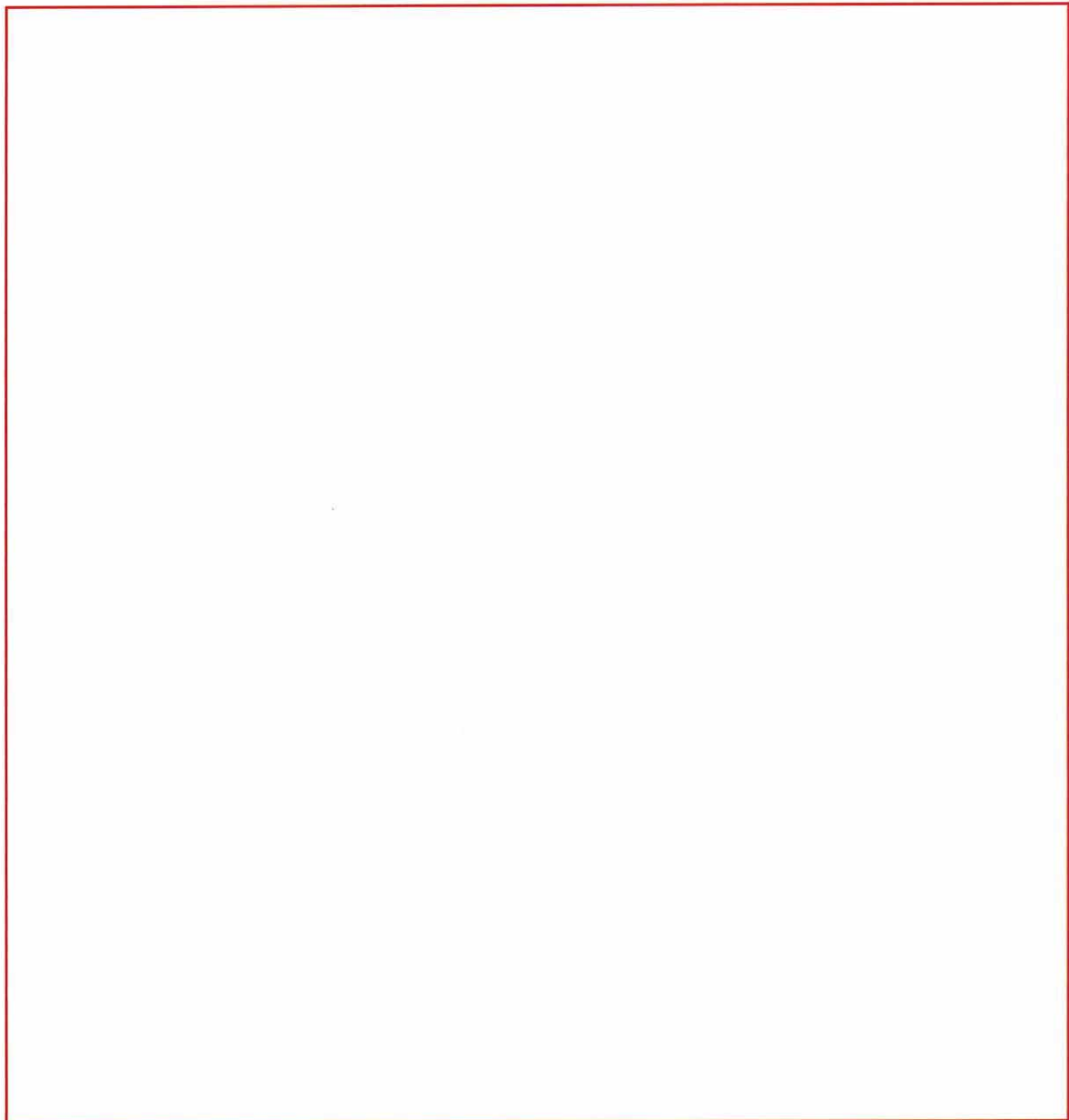
モニタリング対象2種( )と( )の捕獲移動の実施状況を表 6.1.4-14 に、捕獲移動場所を図 6.1.4-16～図 6.1.4-19 に示した。

工事前調査時に、( )の生息木 13 本、( ) 69 個体の捕獲移動を実施している。各移動箇所における移動後の生息状況については次頁以降に示した。

なお、G 着陸帯、歩道の移動先については捕獲移動を秋季(10 月)に実施した。

表 6.1.4-14 モニタリング対象2種の捕獲移動の実施状況

No.	種名	G 着陸帯	G 進入路	H 着陸帯	N-1 着陸帯	既存 道路	歩道	計
1	( )	0	5	2	1	3	2	13
2	( )	5	3	45	0	11	5	69
	計	5	8	47	1	14	7	82



凡例



: 事業実施区域



: 貴重動物の移動地点



0 100 200m

図 6.1.4-16 モニタリング対象 2 種の捕獲移動場所 (G 地区、G 進入路)

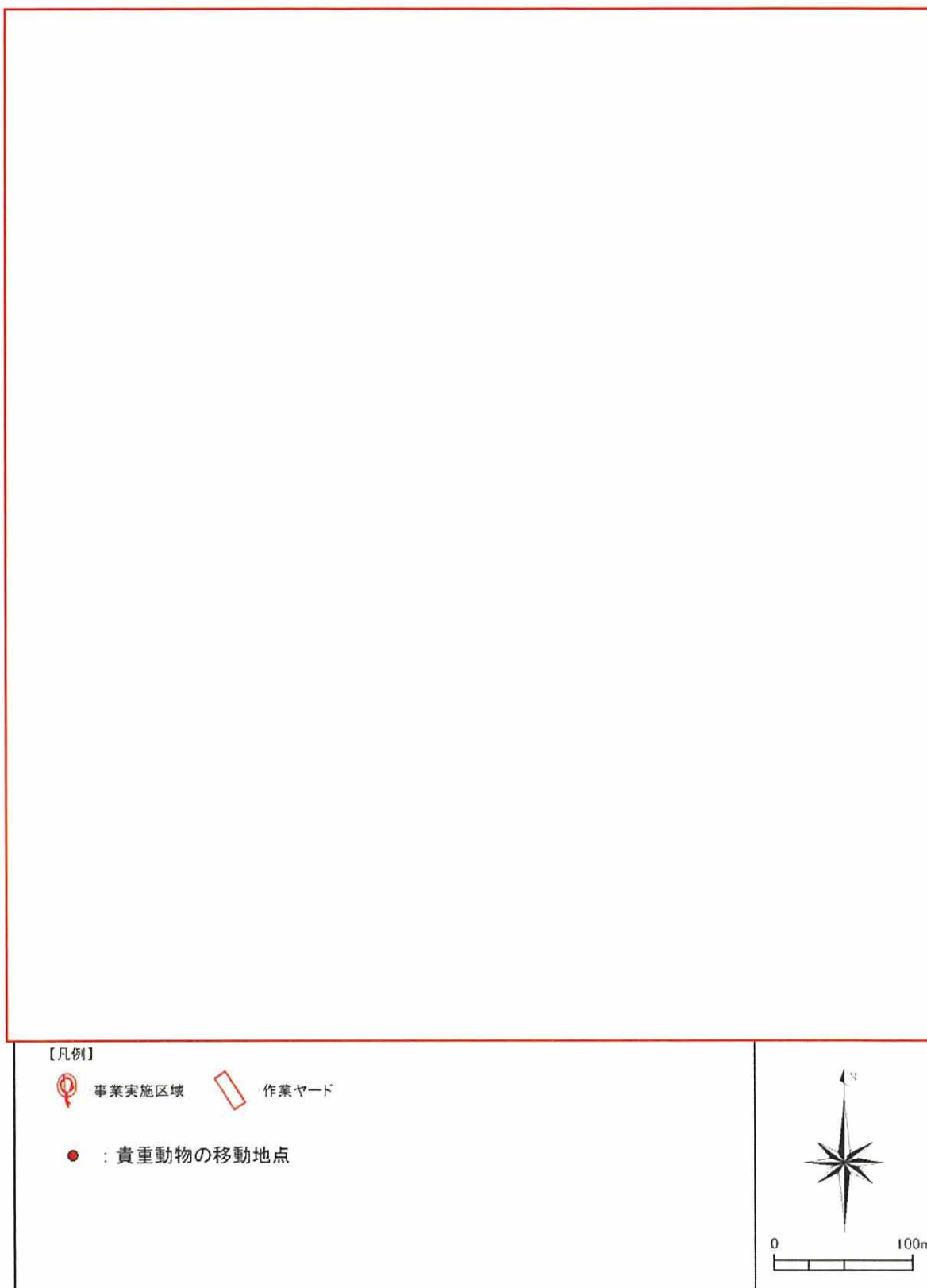


図 6.1.4-17 モニタリング対象 2 種の捕獲移動場所 (H 地区)



図 6.1.4-18 モニタリング対象 2 種の捕獲移動場所 (N-1 地区、既存道路)



図 6.1.4-19 モニタリング対象 2 種の捕獲移動場所 (歩道)

a) G 地区 (G 地区 進入路含む)

(a)

G 地区 進入路の移動先における  の移動後の生息状況を表 6.1.4-15 に、確認状況を図 6.1.4-20 に示した。

調査の結果、移動した 2 箇所の 5 生息木において本種の削りかすにより生息を確認し、移動後の生息状況は良好であった。移動先周囲では、移動した生息木他には生息木の確認はなかった。

平成 28 年 10 月に実施したモニタリング調査時に、工事区域から新たに G 進-1 に 1 本、G 進-2 に 1 本の生息木の移動を実施した。

表 6.1.4-15  の移動後の生息状況 (G 地区)

No.	移動年月	生息木	確認状況
			平成 28 年 10 月
G 進-1	平成 28 年 9 月	No.1	○ 周辺に生息木なし
	平成 28 年 10 月	No.2	—
G 進-2	平成 28 年 9 月	No.1	○ 周辺に生息木なし
	平成 28 年 9 月	No.2	○ 周辺に生息木なし
	平成 28 年 10 月	No.3	—

注 1) 「○」は削りかす(生息痕)の確認を示し、周辺の生息状況を併記した。  
 注 2) 10 月に移動を実施した生息木については、モニタリングを実施していない。



移動先の環境



生息木の腐朽状況

図 6.1.4-20  の移動後の確認状況 (G 地区)

(b)

G 地区及び G 地区進入路の移動先における  の移動後の生息状況を表 6.1.4-16 に、確認状況を図 6.1.4-21 に示した。

の生息状況の確認は、生息場保全の観点から巣穴を掘っての個体の確認は行わず、地表面の巣穴の蓋の確認を行った。また、巣穴の破損状態から放棄巣と思われる場所の確認は除外した。

G 地区進入路の移動先(G 進-3)では、移動した 3 個体全ての生息を確認した。巣穴の周りにはコケが生えており、ある程度湿潤であると考えられた。

表 6.1.4-16  の移動後の生息状況 (G 地区、G 地区進入路)

No.	移動年月	移動数	確認状況
			平成 28 年 10 月
G-1	平成 28 年 10 月	5	-
G 進-3	平成 28 年 9 月	3	3 やや湿潤
計		8	3

注 1) 巣穴周辺の環境等も併記した。

注 2) 10 月に移動を実施した移動先 G-1 については、移動後のモニタリングを実施していない。



移動先の環境



の巣穴

図 6.1.4-21  の移動後の確認状況 (G 地区、G 地区進入路)



b) H 地区

(a)

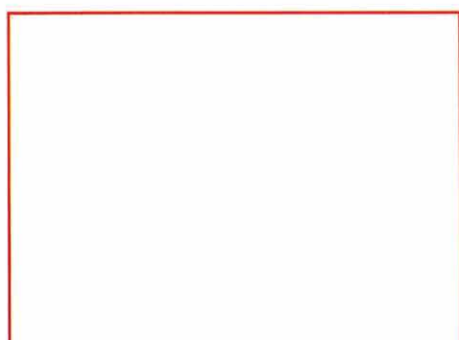
H 地区の移動先における  の移動後の生息状況を表 6.1.4-17 に、確認状況を図 6.1.4-22 に示した。

調査の結果、移動した 2 本の生息木において本種の削りかすを確認し、移動後の生息状況は良好であった。移動先周囲では、移動した生息木の他には生息木の確認はなかった。

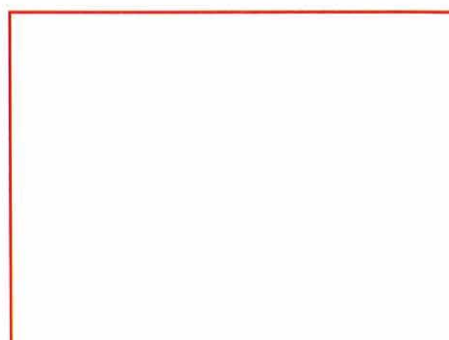
表 6.1.4-17  の移動後の生息状況 (H 地区)

No.	移動年月	生息木	確認状況
			平成 28 年 10 月
H-1	平成 28 年 8 月	No. 1	○ 周辺に生息木なし
		No. 2	○ 周辺に生息木なし

注) 「○」は削りかす(生息痕)の確認を示し、周辺の生息状況を併記した。



移動先の環境



生息木と排出かす

図 6.1.4-22  の移動後の確認状況 (H 地区)

(b)

H地区の移動先における  の移動後の生息状況を表 6.1.4-18 に、確認状況を図 6.1.4-23 に示した。

H地区の移動先では、移動した45個体のうち23個体について生息を確認した。巣穴の周りにはコケが生えており、ある程度湿潤であると考えられた。

表 6.1.4-18  の移動後の生息状況 (H地区)

No.	移動年月	移動数	確認状況
			平成28年10月
H-2	平成28年8月	35	16 やや湿潤 その他19個体を確認
H-3		10	7 やや湿潤 その他14個体を確認
計		45	23



移動先の環境



の巣穴

図 6.1.4-23  の移動後の確認状況 (H地区)

c) N-1 地区・既存道路

(a)

N-1 地区及び既存道路の移動先における  の移動後の生息状況を表 6.1.4-19 に、確認状況を図 6.1.4-24 に示した。

調査の結果、N1-1、既-2、3 の 3 箇所に移動した 4 生息木において本種の削り  を確認し、移動後の生息状況は良好であった。移動先周囲では、移動した生息木の他には生息木の確認はなかった。

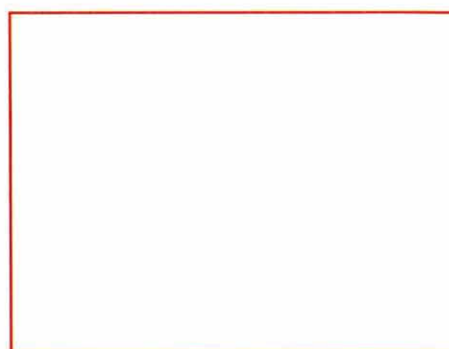
表 6.1.4-19  の移動後の生息状況 (N-1 地区・既存道路)

No.	移動年月	生息木	確認状況
			平成 28 年 11 月
N1-1	平成 28 年 8 月	No. 1	○ 周辺に生息木なし
既-2	平成 28 年 7 月	No. 1	○ 周辺に生息木なし
既-3	平成 28 年 7 月	No. 1	○ 周辺に生息木なし
		No. 2	○ 周辺に生息木なし

注) 「○」は削りかす(生息痕)の確認を示し、周辺の生息状況を併記した。



移動先の環境



生息木と排出かす

図 6.1.4-24  の移動後の確認状況 (N-1 地区、既存道路)

(b)

既存道路の移動先における  の移動後の生息状況確認結果を表 6.1.4-20 に、確認状況を図 6.1.4-25 に示した。

既存道路の移動先では、移動した 11 個体のうち 10 個体について生息を確認した。巣穴の周りにはコケが生えており、ある程度湿潤であると考えられた。

表 6.1.4-20  の移動後の生息状況確認結果 (N-1 地区、既存道路)

No.	移動年月	移動数	確認状況
			平成 28 年 11 月
既-1	平成 28 年 8 月	11	10 やや湿潤
計		11	10

注 1) 巣穴周辺の土壌の状態も併記した。



移動先の環境



の巣穴

図 6.1.4-25  の移動後の確認状況 (N-1 地区、既存道路)

d) 歩道

歩道の移動先については移動後のモニタリングは実施していない。

### 3) 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況

#### (1) 調査期間

調査実施期間は表 6.1.4-21 に示すとおり。

表 6.1.4-21 調査期間一覧

調査地点	調査時期	
	工事前	工事中
G 地区	平成 28 年 5 月 12 日、6 月 21 日	平成 28 年 10 月 12 日、12 月 2 日
H 地区	平成 28 年 5 月 13 日、6 月 22 日	平成 28 年 10 月 13 日、12 月 3 日
N-1 地区	平成 28 年 5 月 12 日、13 日、6 月 21 日、22 日	平成 28 年 10 月 12 日、13 日、12 月 2 日、3 日
宇嘉川(G と N-1 からの処理排水の合流箇所から河口までの約 500m 区間)	平成 28 年 7 月 13 日	平成 28 年 10 月 27 日、12 月 1 日

#### (2) 調査方法

調査方法の一覧を表 6.1.4-22 に示した。

なお、の区分は、平嶋・立原(2000)や立原(2009)を参考とし、目測において以下のとおり区分した。

- ・成魚：体長約 25mm 以上
- ・未成魚：体長約 10mm 以上-25mm 以下
- ・浮遊仔魚：体長約 10mm 以下 淵を浮遊している個体

参考文献：平嶋健太郎・立原一憲(2000)．沖縄島に生息する中卵型ヨシノボリ 2 種の卵内発生および仔稚魚の成長に伴う形態変化．魚類学雑誌 47(1)：29-41．

立原一憲(2009)．琉球列島の中卵型ヨシノボリ属 2 種：島嶼の河川で進化してきたヨシノボリ類の保全と将来．魚類学雑誌 56(1)：70-74．

表 6.1.4-22 調査対象及び調査方法

調査対象	調査手法	詳細
流下経路の生息・繁殖状況	目視観察法 捕獲法	調査は、流下経路を踏査し、河岸から目視、透明度の高い河川では潜水目視での確認とともに、タモ網を用いて両生類・魚類・水生昆虫類を採集して記録する。調査では、貴重種の確認位置と繁殖状況(卵、幼生等)を記録した。

(3) 調査地点

a) G 地区

G 地区の流下経路は、図 6.1.4-26 に示すとおり宇嘉川の上流部にあたり、下流側にはダム等の人工構造物が存在しない。流下経路は G 着陸帯から北側に流下し、最終的には宇嘉川に合流する。合流箇所は河口より約 500m 上流側に位置する。

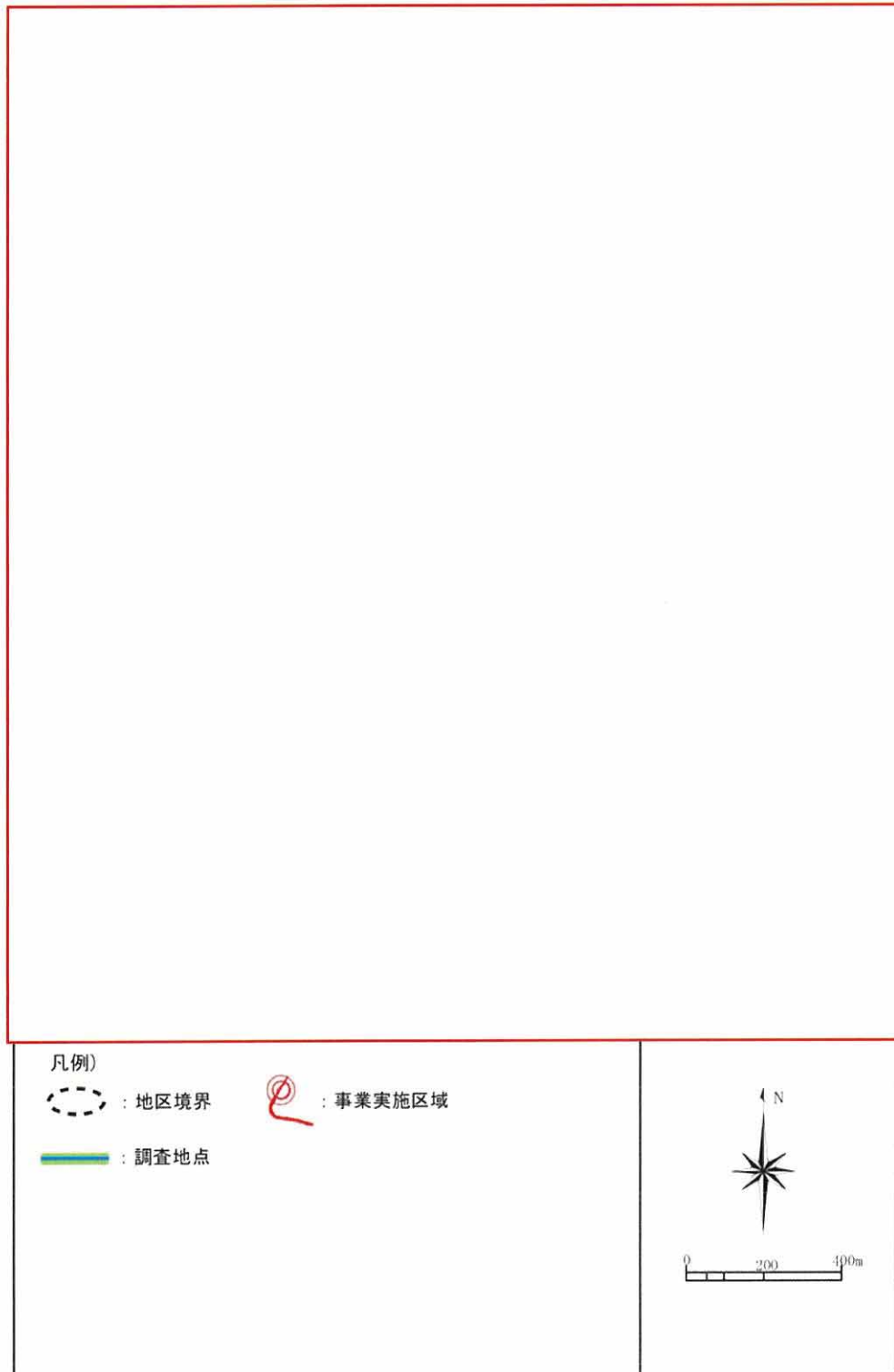


図 6.1.4-26 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類等の生息・繁殖状況調査地点 (G)

b) H 地区

H 地区の流下経路は、図 6.1.4-27 に示すとおり下流側にはダム等の人工構造物が存在しない。流下経路はH 着陸帯から西側と南東側に流下し、最終的には合流する。西側に流下した流れは途中、

を流れる。

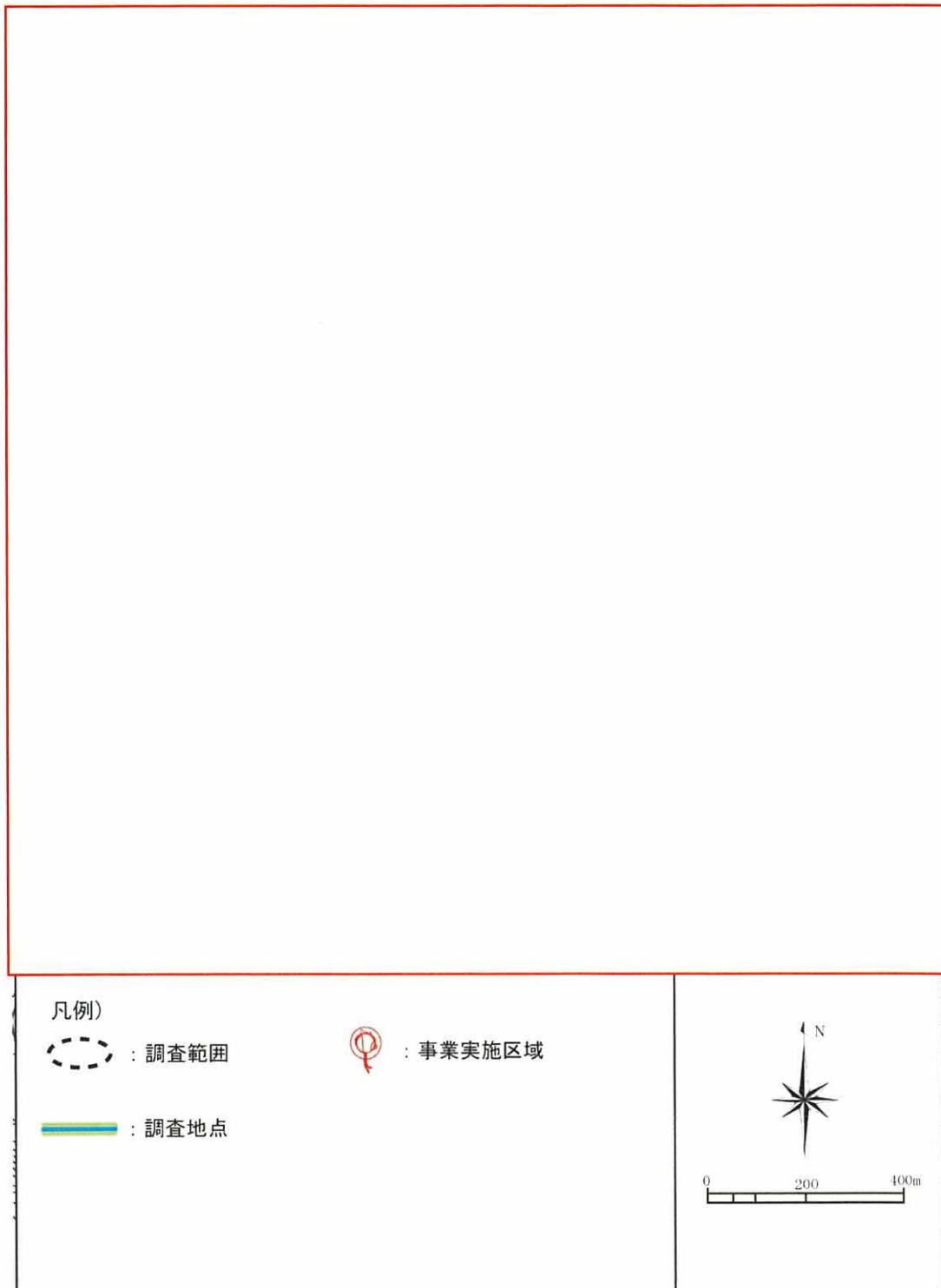


図 6.1.4-27 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類等の生息・繁殖状況調査地点(H)

### c) N-1 地区

N-1 地区の流下経路は、図 6.1.4-28 に示すとおり宇嘉川の上流部にあたり、下流側には取水堰があるだけでダム等は存在しない。流下経路は N-1(a)、(b)より北側へ流下する河川、N-1(b)より南東側へ流下する河川、N-1(a)より南東側へ流下する河川の計 3 河川(南側から N-1(a)、(b)、(c)とした)が存在し、いずれも宇嘉川に流れ込んでいる。N-1(c)の一部は宇嘉川の本線に位置している。いずれの流下経路も着陸帯から北側に流下し、最終的には宇嘉川に合流する。N-1(a)は 3 河川のうち、最も下流で宇嘉川に合流し、合流箇所は河口より約 2km 上流側に位置する。

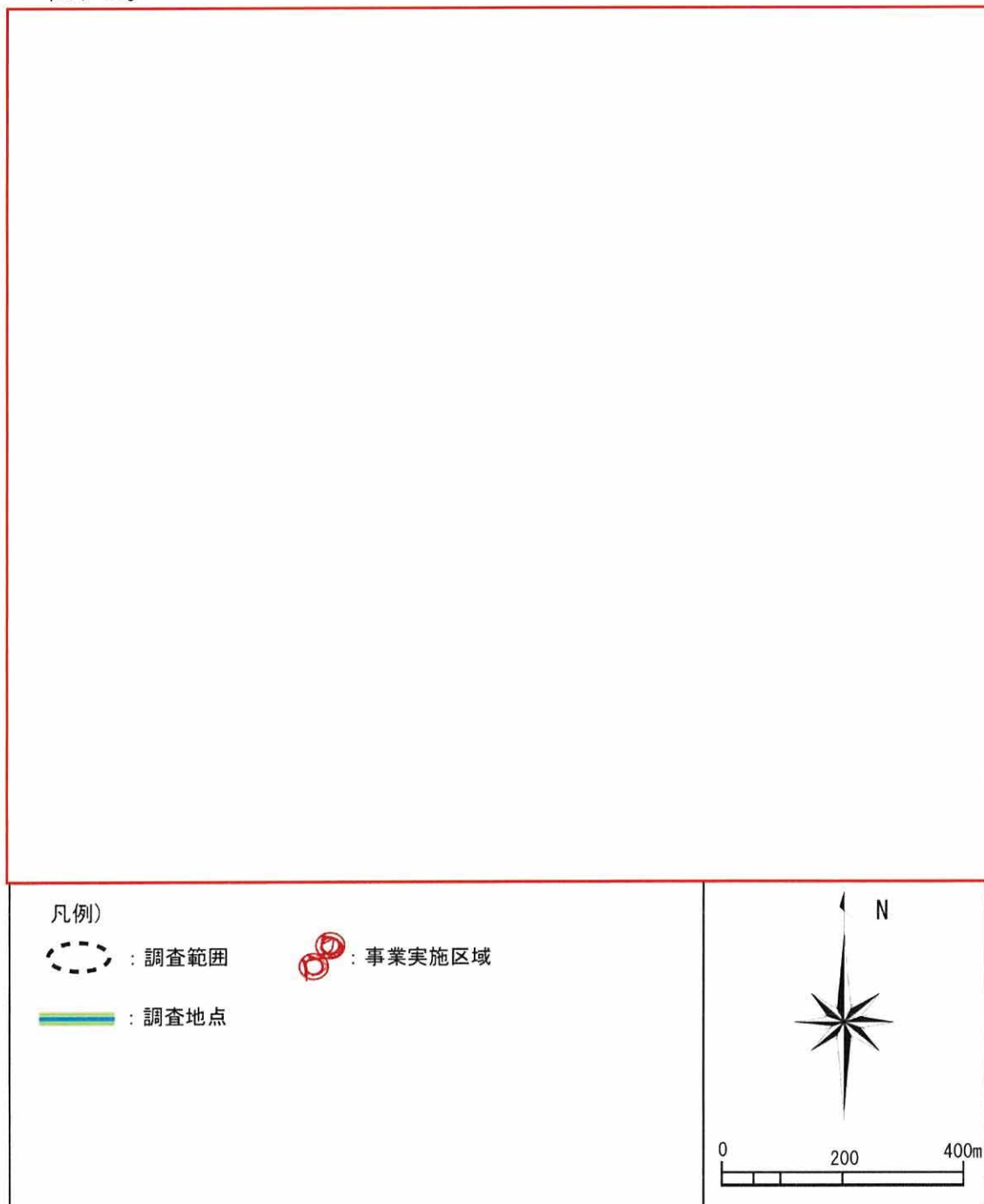


図 6.1.4-28 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類等の生息・繁殖状況調査地点(N-1)



d) 宇嘉川

宇嘉川は図6.1.4-31に示すG地区の流下経路とN-1地区の流下経路の合流する箇所より下流側の河口から [ ] 区間について行った。下流側にはダム等の人工構造物が存在しておらず、河口部において短い汽水区間が存在する。本調査は工事計画の変更に伴い、G地区及びN-1地区の流下経路に同時に処理水を流した場合を想定した影響予測の検証として行った。

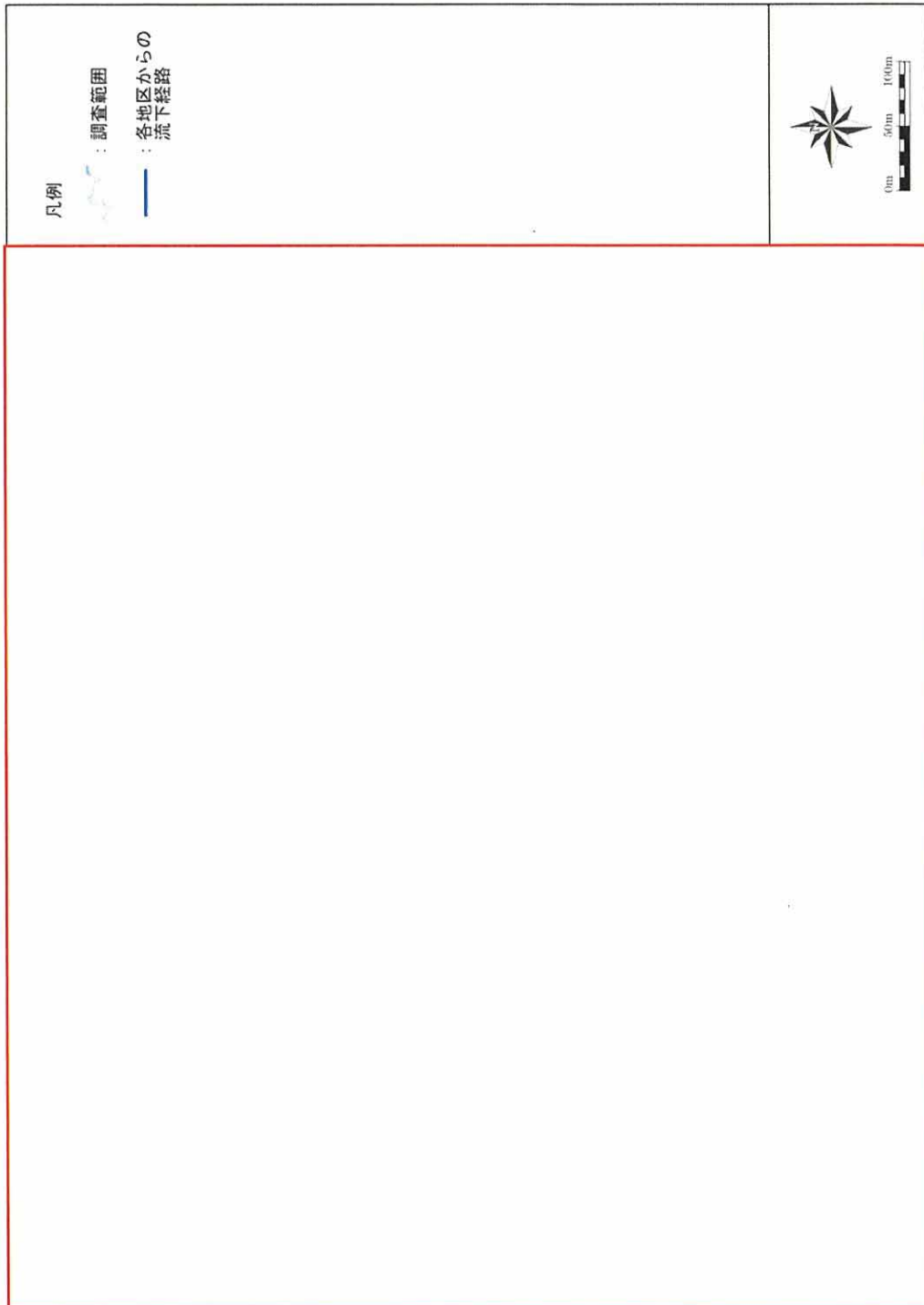


図 6.1.4-29 流下経路位置(宇嘉川)

(4) 調査結果

a) G 地区

(a) 両生類

G 地区の流下経路で確認された貴重な両生類を表 6.1.4-23 に、その確認地点を図 6.1.4-30 に示した。

貴重な両生類は、、、、、の 5 種を確認した。確認状況は 2~5 種の間であり、5 月が最も多く、その後に減少していた。工事前と工事中では 、が工事中に見られなかった。

通年、確認されたのは と であり、は幼生が毎回確認されている。

表 6.1.4-23 流下経路で確認した貴重な両生類(G 地区)

No.	目名	科名	種名	工事前		工事中		天然記念物	種の保存法	環境省 RL	沖縄県 RDB
				平成28年 5月	平成28年 6月	平成28 年10月	平成28 年12月				
1	イモリ			◎ 幼生3		◎ 幼生3		県	国内	VU	VU
2				◎ 成体4、幼生3	◎ 成体1、幼生4	◎ 成体3、幼生1	◎ 成体2、幼生1			NT	
3	カエル			○ 成体1						NT	NT
4				○ 成体2	○ 成体2			県	国内	EN	EN
5				◎ 成体4、幼生4	○ 成体3	○ 成体2	○ 成体1			VU	EN
	2目	2科	5種	5種	3種	3種	2種	2	2	5	4

注 1) 貴重種のカテゴリーは表 6.1.4-24 に準じる。

注 2) 表中の○は生息、◎は生息・繁殖を示す。

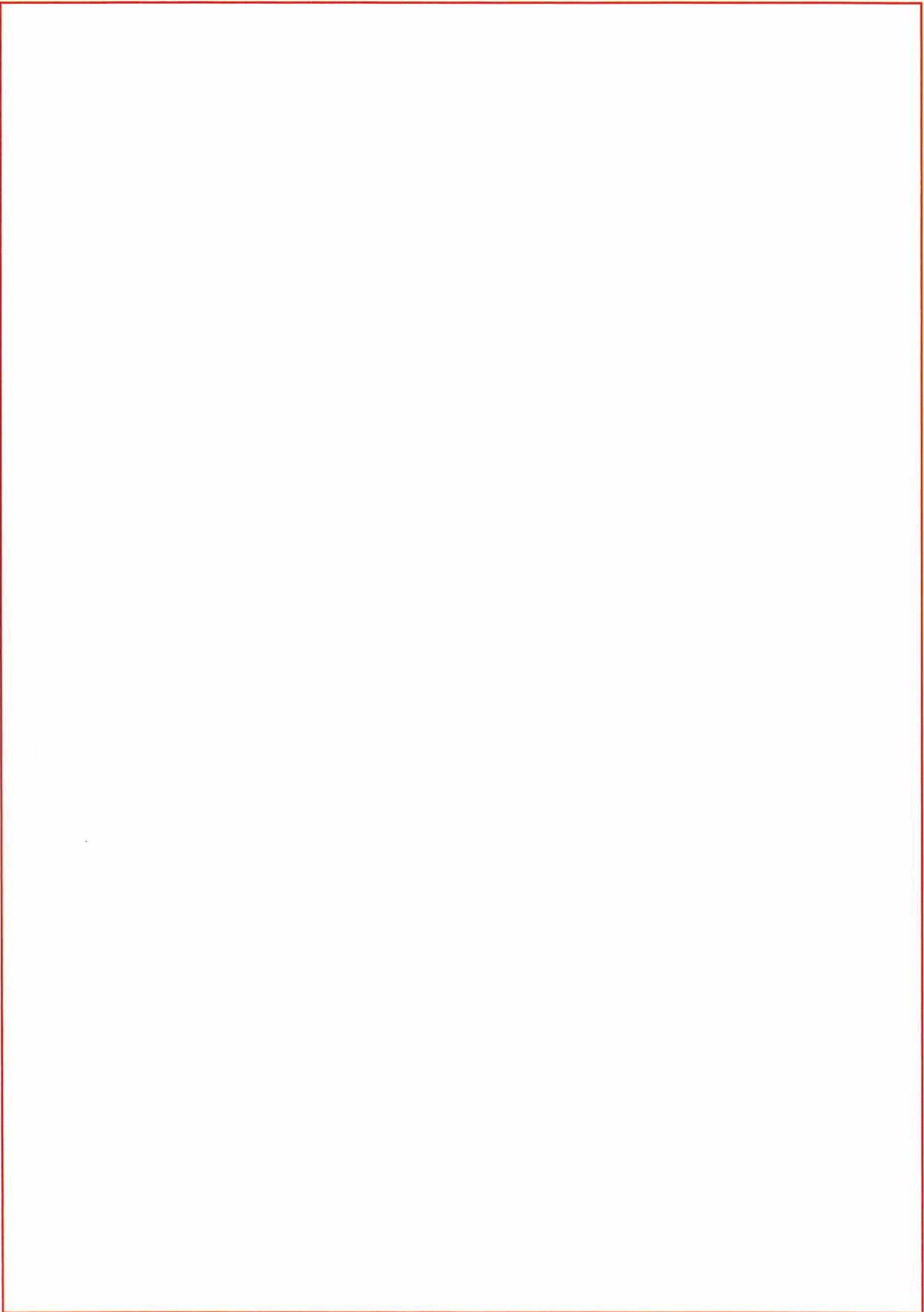


図 6.1.4-30 流下経路での貴重な両生類の確認位置(G地区)

(b) 魚類

G 地区の流下経路で確認された貴重な魚類を表 6.1.4-24 に示した。

確認された貴重な魚類は  の 1 種であり、確認位置を図 6.1.4-31 に、地点別の確認数を表 6.1.4-25 に示した。

確認個体数は工事前の平成 27 年 6 月 902 個体、平成 28 年 5 月に 1,436 個体、6 月に 954 個体、工事中の 10 月に 339 個体、12 月に 536 個体であり、工事中にかけて個体数が減少していた。

表 6.1.4-24 流下経路で確認した貴重な魚類(G 地区)

種名	工事前		工事中		環境省 RL	沖縄県 RDB
	平成28年5月	平成28年6月	平成28年 10月	平成28年 12月		
	◎ 1,436	◎ 954	◎ 339	◎ 536	CR	EN
1種	1種	1種	1種	1種	1	1

注 1) 参考として工事前調査結果をあわせて示した。

注 2) 貴重種のカテゴリーは以下のとおりである。なお、次頁以降の区分も同様である。

環境省 RL: 「環境省レッドリスト 2015 【汽水・淡水魚類】、【両生類】、【昆虫類】」(2015) 環境省

CR: 絶滅危惧 IA 類 : ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN: 絶滅危惧 IB 類 : IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

VU: 絶滅危惧 II 類 : 絶滅の危険が増大している種

NT: 準絶滅危惧 : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

沖縄県 RDB: 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物(動物編)-レッドデータおきなわ-」(2005 年) 沖縄県

CR: 絶滅危惧 IA 類 : 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN: 絶滅危惧 IB 類 : 沖縄県では IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU: 絶滅危惧 II 類 : 沖縄県では絶滅の危機が増大している種

NT: 準絶滅危惧 : 沖縄県では存続基盤が脆弱な種

天然記念物: 「文化財保護法」(昭和 25 年法律 214 号)

特: 特別天然記念物 国: 国指定天然記念物 県: 県指定天然記念物

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律 75 号)

国内: 国内希少野生動植物種

注 3) 表中の○は生息、◎は生息・繁殖を示す。

表 6.1.4-25                      の地点別の確認数 (G 地区)

【平成 28 年 5 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">                    </span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
宇嘉川	1	2	4		14
	2	7	8	30	100
	3	8	16	16	37
	4	23	7	8	107
	5	2	1		53
	6	2	1		53
	7	7	4	2	60
	8	9	11		46
	9	16	23		38
	10	5	15		
	11	2	3		1
	12	30	30		20
	13	23	17		3
	14	21	32	2	79
	15	7	6		3
	16	41	35		63
	17	2	1		40
	18				12
	19	8	8		70
	20	19	22		71
	21	8	2		20
計		242	246	58	890

【平成 28 年 6 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">                    </span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
宇嘉川	1		2	1	16
	2		1		1
	3	6	13	7	39
	4	4	9	5	35
	5	2	8	3	11
	6	2	1		
	7	1	3	1	24
	8	4	7	2	34
	9	15	24	2	18
	10	3	3	2	5
	11	2	4	1	6
	12	3	17	2	37
	13	1	2		7
	14		3		2
	15	2	1	5	10
	16	5	7	1	21
	17	4	3	6	8
	18	2	6	3	9
	19	9	7	1	5
	20	6	2	3	6
	21	2	6	4	5
	22	2	4		18
	23	21	19	8	23
	24	55	79	14	7
	25				4
	26				7
	27		2	6	13
	28	11	5	18	10
	29	6	4	8	12
	30	5	7	3	13
	31	2	4		3
	32	1	2	2	6
合計		176	255	108	415

【平成 28 年 10 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">                    </span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
宇嘉川	1	2	10		4
	2	3	8		18
	3	1	5		21
	4	6	9		15
	5	3	4		8
	6	3	7		14
	7	2	1		8
	8	6	9		6
	9	5	15		10
	10	5	6		8
	11	2	3		9
	12	3	5		7
	13	3	8		13
	14	4	10		7
	15	1	5		9
	16	5	6		2
	17	5	4		6
計		59	115	165	0

【平成 28 年 12 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">                    </span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
宇嘉川	1	3	5		7
	2	4	4		5
	3	7	8		20
	4	6	6		10
	5	2	7		6
	6	12	13		25
	7	1	6		7
	8	5	6		10
	9	3	3		9
	10	10	14		22
	11	8	13		25
	12	1	4		8
	13	5	11		4
	14	9	13		15
	15	2	1		5
	16	2	6		1
	17	4	6		11
	18	4	9		14
	19	1	1		5
	20	2	3		6
	21	1	3		7
	22		2		6
	23	6	10		19
	24	3	3		19
	25	2	2		8
計		103	159	274	0



注) 図中の数値は地点番号を示し、表 6.1.4-25 と対応する。

図 6.1.4-31 流下経路での貴重な魚類の確認位置(G 地区)

(c) 水生昆虫類

G地区の流下経路で確認された貴重な水生昆虫類を表 6.1.4-26 に、その確認地点を図 6.1.4-32 に示した。

貴重な水生昆虫類はトンボ類が5種、、  
の計7種を確認した。確認状況は5種～6種の間で変化しており、大きな変化は見られなかった。工事前と工事中では、工事中にが確認されなかった。

表 6.1.4-26 流下経路で確認した貴重な水生昆虫類(G地区)

No.	目名	科名	種名	工事前		工事中		環境省 RL	沖縄県 RDB
				平成28年 5月	平成28年 6月	平成28年 10月	平成28年 12月		
1	トンボ			◎ 幼虫3	◎ 幼虫1				NT
2				◎ 幼虫3	◎ 幼虫11	◎ 幼虫3	◎ 幼虫1		NT
3				◎ 幼虫1					NT
4					◎ 幼虫3	◎ 幼虫6	◎ 幼虫3		NT
5				◎ 幼虫4	◎ 幼虫4	◎ 幼虫2	◎ 幼虫18	NT	NT
6				○ 成虫5	○ 成虫4	○ 成虫8	○ 成虫3	NT	
7				◎ 幼虫1	◎ 幼虫4	◎ 幼虫2	◎ 幼虫13		NT
	3目	6科	7種	6種	6種	5種	5種	2	6

注 1) 貴重種のカテゴリーは表 6.1.4-24 に準じる。  
 注 2) 表中の○は生息、◎は生息・繁殖を示す。

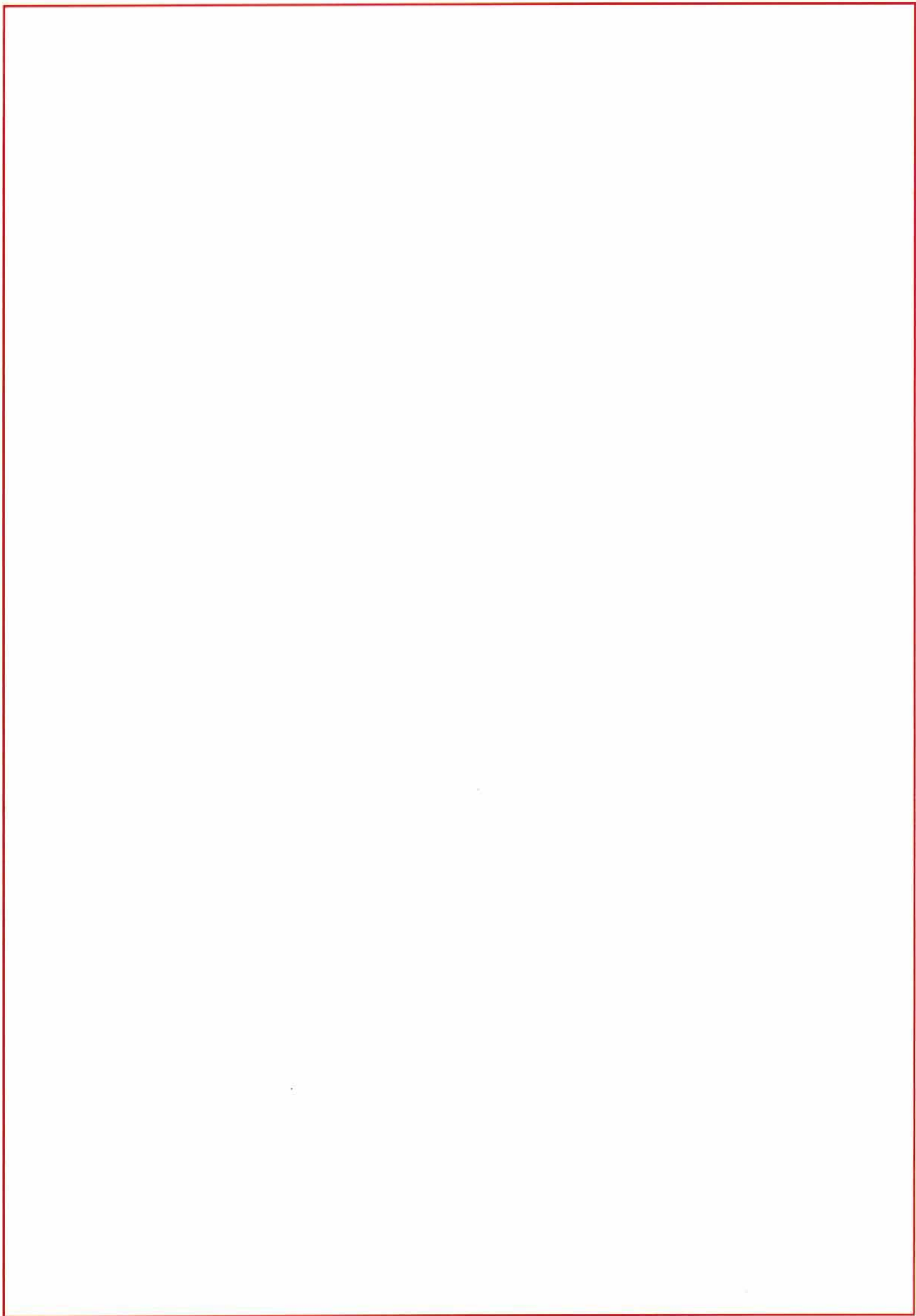


図 6.1.4-32 流下経路での貴重な水生昆虫類の確認位置(G地区)



b) H 地区

(a) 両生類

H 地区の流下経路で確認された貴重な両生類を表 6.1.4-27 に、その確認地点を図 6.1.4-33 に示した。

貴重な両生類は、、、、  
、の 5 種を確認した。確認状況は 3~5 種の間であり、5 月が最も多く、その後に減少していた。

全ての調査で確認されたのは、、  
であった。

表 6.1.4-27 流下経路で確認した貴重な両生類(H 地区)

No.	目名	科名	種名	工事前		工事中		天然記念物	種の保存法	環境省 RL	沖縄県 RDB
				平成28年 5月	平成28年 6月	平成28年 10月	平成28年 12月				
1	イモリ			◎ 幼生11				県	国内	VU	VU
2				◎ 成体14、幼生31	◎ 成体40、幼生35	◎ 成体11、幼生5	◎ 成体17、幼生1			NT	
3	カエル			◎ 成体2、幼生12	◎ 成体1、幼生1、幼生3	◎ 成体2、幼生1	◎ 幼体1			VU	EN
4				◎ 幼生5	◎ 成体1、幼生2、卵塊2	◎ 成体1、幼生2	◎ 幼生2	県	国内	EN	EN
5				◎ 成体4、幼生2	◎ 成体1、幼生7	◎ 成体1、幼生6		県	国内	EN	EN
	2目	2科	5種	5種	4種	4種	3種	3	3	5	4

注 1) 貴重種のカテゴリーは表 6.1.4-28 に準じる。

注 2) 表中の○は生息、◎は生息・繁殖を示す。

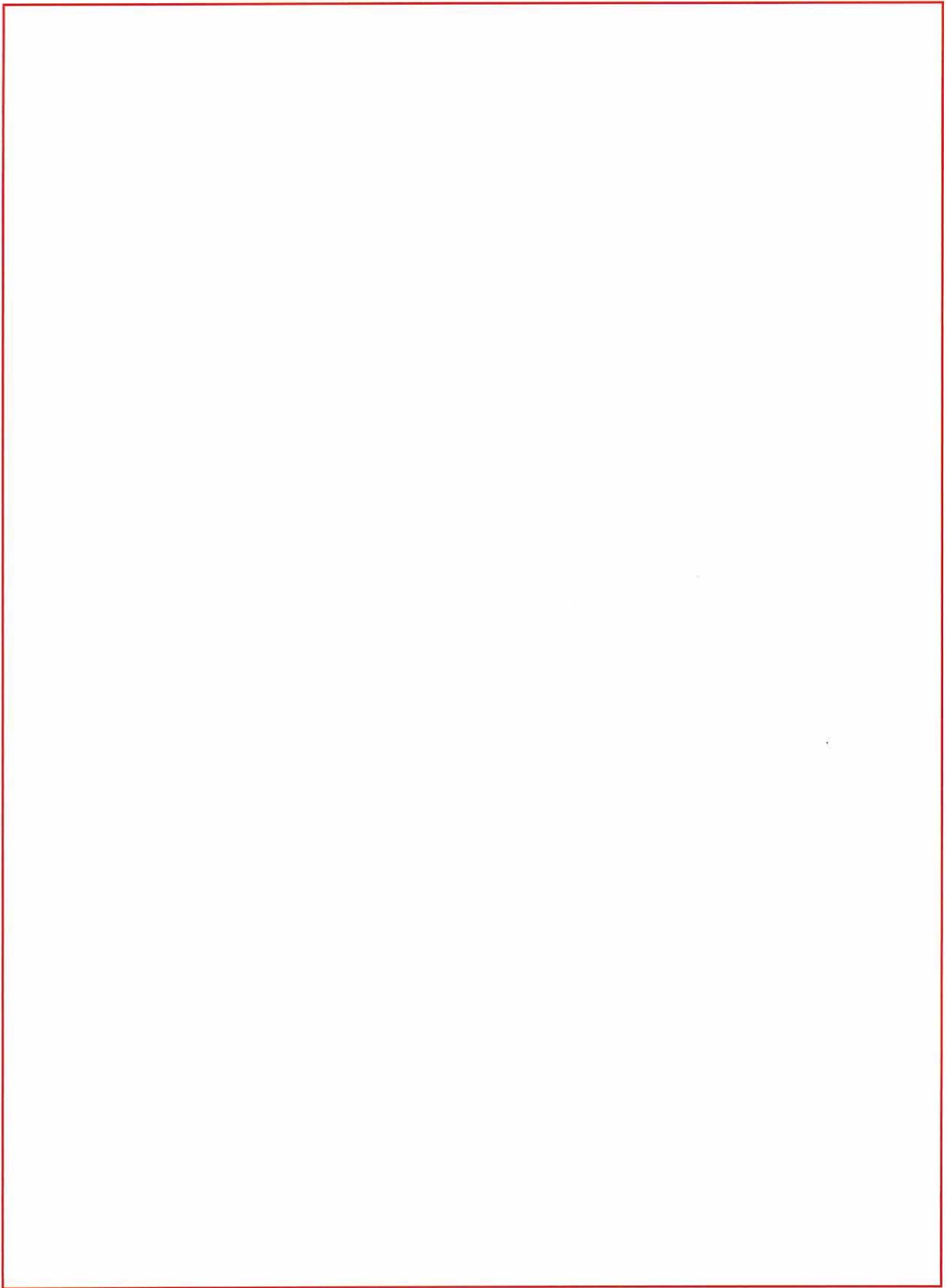


図 6.1.4-33 流下経路での貴重な両生類の確認位置(H地区)

(b) 魚類

H地区の流下経路で確認された貴重な魚類を表 6.1.4-28 に示した。

確認された貴重な魚類は [ ]、[ ] の 2 種であった。

また、確認位置を図 6.1.4-34 に地点別の確認数を表 6.1.4-29 に示した。

確認個体数は [ ] では 5 月 1 個体、6 月 1 個体、工事中の 12 月 10 個体が確認された。 [ ] では工事前の平成 28 年 5 月 2,277 個体、6 月 1,674 個体、工事中の 10 月 840 個体、12 月 827 個体であり、工事中にかけて個体数が減少していた。

表 6.1.4-28 流下経路で確認した貴重な魚類(H地区)

No.	科名	種名	工事前		工事中		環境省 RL	沖縄県 RDB
			平成28年 5月	平成28年 6月	平成28年 10月	平成28年 12月		
1	ハゼ	[ ]	○	○		○	CR	CR
2		[ ]	◎	◎	◎	◎	CR	EN
			2,277	1,674	840	827		
	1科	2種	2種	2種	1種	2種	2	2

注 1) 貴重種のカテゴリーは以下のとおりである。なお、表 6.1.4-27、表 6.1.4-30 の区分も同様である。  
 環境省 RL: 「環境省レッドリスト 2015 【汽水・淡水魚類】、【両生類】、【昆虫類】」(2015) 環境省  
 CR: 絶滅危惧 IA 類 : ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種  
 EN: 絶滅危惧 IB 類 : IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種  
 VU: 絶滅危惧 II 類 : 絶滅の危険が増大している種  
 NT: 準絶滅危惧 : 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種  
 沖縄県 RDB: 「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物(動物編)-レッドデータおきなわ-」(2005 年) 沖縄県  
 CR: 絶滅危惧 IA 類 : 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの  
 EN: 絶滅危惧 IB 類 : 沖縄県では IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの  
 VU: 絶滅危惧 II 類 : 沖縄県では絶滅の危機が増大している種  
 NT: 準絶滅危惧 : 沖縄県では存続基盤が脆弱な種  
 天然記念物: 「文化財保護法」(昭和 25 年法律 214 号)  
 特: 特別天然記念物 国: 国指定天然記念物 県: 県指定天然記念物  
 種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律 75 号)  
 国内: 国内希少野生動植物種  
 注 2) 表中の○は生息、◎は生息・繁殖を示す。

表 6.1.4-29(1)  の地点別の確認数 (H地区)

【平成 28 年 5 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
高江川	1	1	6	1	
	2	3	10	2	46
	3	9	8	13	18
	4	7	10	7	25
	5	15	20	9	40
	6	7	8	14	30
	7	11	14	2	50
	8	2	2		6
	9	8	10	10	40
	10	13	14	11	72
	11	14	16	13	70
	12	13	18	3	60
	13	16	20	6	30
	14	5	11	3	40
	合計	330	390	348	1,209

【平成 28 年 6 月】

流域	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
高江川	1	1	2	5	
	2	1	1		
	3	5	9	8	7
	4	12	16	3	10
	5	2	8	1	1
	6	3	2	1	1
	7	6	8	5	12
	8	3	6	4	1
	9	2	4	7	16
	10	3	2	5	20
	11	1		1	7
	12	3	6	3	5
	13	6	5		5
	14	1	3		9
	15	3	6	4	7
	16	6	8	8	12
	17	14	8	15	43
	18		6	1	18
	19	7	16	5	52
	20	5	8	2	8
	21	4	7	2	46
	22	31	29	15	35
	計	252	343	204	875

表 6.1.4-29(2)  の地点別の確認数(H地区)

【平成 28 年 10 月】

地区	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
高江川	1	3	9	3	
	2		2	3	
	3	5	1	6	
	4	2	1	3	
	5	6	13	10	
	6	4	8	6	
	7	7	3	4	3
	8	4	6	6	
	9	2	4	9	1
	10	6	5	7	
	11	10	8	20	5
	12	11	11	16	
	13	3	5	9	2
	14	6	1	19	
	15	5	11	17	
	16	2		6	
	17		3	5	15
	18	2	4	5	8
計		203	250	345	42

地区	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
19	1	3	8		
20	12	17	27		
21	6	9	24		
22	30	22	62		
23	2	5			
24	1	3	1		
25	2	2			
26	11	9	4		
27	8	8	10		
28	8	23	16		
29	4	13	5		
30	9	8	14		
31	6	9	2	3	
32	10	7	2	5	
33	9	12	5		
34	3	2	6		
35	3	3	5		
計		203	250	345	42

【平成 28 年 12 月】

地区	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
高江川	1	2	3	4	
	2	4	6	11	
	3	1	2	4	
	4	1	2	2	
	5	1	1	3	
	6	5	8	3	
	7		1	3	
	8	1	3	12	
	9	4	3	7	
	10		3	1	
	11	1	2	4	
	12	2	2	4	
	13	4	5	6	6
	14	1	1	2	
	15	2	3		6
	16	3	6	6	23
	17	4	5	9	8
	18	6	9	12	20
	19	4	3	6	3
	20	2	3	4	11
	21	6	4	3	5
計		198	234	250	145

地区	地点 No.	<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>			
		成魚		未成魚	浮遊仔魚
		雄	雌		
22	8	9	9	5	
23	1	1	6	5	
24	3	3	2	4	
25	1	2	6	3	
26	2	3	8		
27	4	6	5	1	
28	15	13	16	32	
29	4	9	3	2	
30	16	19	10	2	
31	15	17	4		
32	3	1	4		
33	7	6	5		
34	4	7	9		
35	6	7	6		
36	10	8	11		
37	6	3			
38	6	10	13		
39	5	1	1	2	
40	11	12	5	7	
41	11	14	7		
42	6	8	14		
計		198	234	250	145



注) 図中の数値は地点番号を示し、表 6.1.4-29 と対応する。

図 6.1.4-34 流下経路での貴重な魚類の確認位置(H地区)